

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	3015	事業名	保健医療総務事業				
所属名	保健医療局健康医務部医療計画課		評価責任者	医療計画課長 小河 義明			
			作成責任者	大久保 隆司	ダイヤルイン	052-954-6974	
政策名	保健医療行政の円滑な運営		施策名	保健医療行政の円滑な運営			
事業目的	保健医療局における総務・人事・広報・企画・予算・経理等の内部管理事務を行う						
根拠法令・計画等	職員の給与に関する条例等・保健医療局所管嘱託員設置要綱・地方自治法 ほか						
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)		
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	38.70人 (0人)	39人 (0人)	39人 (0人)	45.40人 (0人)	
		非常勤職員(うち地方機関分)	1人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	
	経費	人件費(a)	387,394 千円	373,634 千円	435,298 千円	515,519 千円	
		事業費(b)	3,351,476 千円	3,006,388 千円	2,449,820 千円	15,296,980 千円	
		公債費(c)	98,150 千円	63,245 千円	99,322 千円	55,905 千円	
		計(a)+(b)+(c)	3,837,020 千円	3,443,267 千円	2,984,439 千円	15,868,404 千円	
	収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		5,034 千円	5,034 千円	5,062 千円	6,006 千円	
経費のうち、一般財源等		1,628,632 千円	1,671,703 千円	975,341 千円	13,008,599 千円		
事業計画の内容及び事業費の内訳	保健行政の円滑な運営を図るため、保健医療局における内部管理事務等を行う。 [主な事業] 1 地域医療介護総合確保基金医療事業積立金:2,997,808千円(新規積立金2,984,753千円) 2 県立保健医療施設設備整備費:212,212千円(大規模修繕改修工事関連144,376千円) 3 自治医科大学運営費負担金:131,200千円(負担金131,200千円) 4 保健医療調整事務費:10,211千円(技術職員派遣研修等10,211千円) 5 衛生対策審議会費:45千円(委員旅費等45千円)						
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)		目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	県民当たりコスト (PL経常費用/本県人口)	最終目標	-		
				6年度	-	(見込)	
				5年度	-	79円 (実績)	
		2	修繕等を実施した県立保健医療施設数	最終目標	7年度までの3年間で延べ33施設		
				6年度	11施設(延べ22施設)	11施設(延べ22施設) (見込)	
				5年度	11施設	11施設 (実績)	
		3	へき地等派遣医師充足率 (派遣医師数/必要医師数)	最終目標	毎年度医師充足率100%		
				6年度	100%	100% (見込)	
				5年度	100%	100% (実績)	
		4		最終目標			
				6年度		(見込)	
				5年度		(実績)	
		5		最終目標			
				6年度		(見込)	
	5年度				(実績)		
	外部要因等	なし					
	目的の達成に関する評価	B:目標達成 ◎主要な指標:2(理由:総事業に占める事業費の割合が高い事業であるため。) ・県立保健医療施設の整備等を進めることができた。 ・へき地等派遣医師充足率を100%満たすことができた。					
コスト指標の増減分析	5年度の県民当たりのコストは、事業費の減少等に伴い、4年度の1,623円に比べ、1,544円減少した。						
課題	へき地等で勤務する医師の確保に向けて、義務年限終了後の医師の県職員身分の延長などを引き続き検討していく必要がある。						
今後の方向性	・県立保健医療施設設備整備費は、引き続き県立保健医療施設の整備等を進める。 ・自治医科大学運営費負担金は引き続き、県内へき地等対象地域からの要請を受け、自治医科大学卒業医師を派遣するとともに、自治医科大学卒業医師に対し、義務年限終了後もへき地等での勤務を依頼するなど、へき地等に勤務する医師の増加に努める。						

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	3030	事業名	医療計画事業			
所属名	保健医療局健康医務部医療計画課	評価責任者	医療計画課長 小河 義明			
		作成責任者	大久保 隆司	ダイヤルイン	052-954-6974	
政策名	地域で安心して暮らせる福祉社会の実現		施策名	医療の向上と各種施策の調整		
事業目的	医療の向上に資する各種施策の推進を図りつつ、地域保健医療計画の推進を図る。					
根拠法令・計画等	統計法、医療法、地域保健法					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	28人(19.80人)	28.90人(20.30人)	28.90人(20.30人)	23.70人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	経費	人件費(a)	284,049千円	285,891千円	268,009千円	237,393千円
		事業費(b)	44,244千円	50,134千円	1,461,634千円	19,992千円
		公債費(c)	3,687千円	3,741千円	3,740千円	3,795千円
		計(a)+(b)+(c)	331,980千円	339,766千円	1,733,383千円	261,180千円
取入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円	
経費のうち、一般財源等		300,997千円	304,753千円	1,693,817千円	223,607千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>厚生統計調査の実施・市町村保健活動支援など健康福祉の向上に資する施策の推進を図りつつ、地域保健医療計画の推進を図る。</p> <p>1 厚生統計調査費:11,055千円(厚生統計調査費10,490千円、保健統計分析費565千円)</p> <p>2 医療計画推進費:29,013千円(事業費22,013千円、病床の機能分化と連携推進事業費補助金7,000千円)</p> <p>3 市町村保健活動推進事業費:4,176千円(災害時保健活動体制整備強化事業費2,288千円、地域保健対策関係者人材育成事業費1,827千円、特定町村保健師確保・定着対策事業費61千円)</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1 県民当たりコスト(PL経常費用／本県人口)	最終目標	—		
			6年度	—	— (見込)	
			5年度	—	237円 (実績)	
		2 統計調査結果HPへのアクセス件数(添付ファイルを除く)	最終目標	3年度(63,984件)を上回る。		
			6年度	63,984件以上	63,984件 (見込)	
			5年度	63,984件以上	58,263件 (実績)	
		3 医療審議会の開催	最終目標	毎年2回		
			6年度	2回	2回 (見込)	
			5年度	2回	2回 (実績)	
	4 特定町村保健師の充足率	最終目標	6年度までに100%			
		6年度	対前年度以上	100% (見込)		
		5年度	対前年度以上	66.6% (実績)		
	5	最終目標				
		6年度		(見込)		
5年度			(実績)			
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり</p> <p>◎主要な指標:3(理由:事業全体の評価に資するため)</p> <ul style="list-style-type: none"> 統計調査結果HPへのアクセス件数については、目標を達成できていない。 医療計画推進費については、審議会に諮るべき議事に合わせ会議の日程調整等を早く行い、目標どおり年2回会議を開催できた。 市町村保健活動推進事業費特定町村保健師の充足率(募集に対する不足)については充足率66.6%と最終目標は達成できていない。 					
コスト指標の増減分析	5年度の県民当たりコストは、事業費の増加等に伴い、4年度の32円に比べ205円増加した。					
課題	・市町村保健活動推進事業特定町村保健師については、町村の保健師募集に対して応募がないことや、採用された保健師の定着が課題である。					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 厚生統計については、引き続き適正に調査を実施し、迅速に調査結果をHPに掲載するように努めていく。 市町村保健活動推進事業費については、特定町村における保健師の確保・定着のため、特定町村の保健師活動の紹介等を行っていく。 医療計画推進費については、引き続き本県の医療を提供する体制の確保に関する重要事項を調査審議するため、医療審議会を必要に応じて開催していく。 					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	3040	事業名	国民健康保険事業				
所属名	保健医療局健康医務部 国民健康保険課	評価責任者	国民健康保険課長 杉浦 嘉一郎				
		作成責任者	田中 慎二	ダイヤルイン	052-954-6277		
政策名	安心できる保健医療サービスの実現		施策名	国民健康保険の健全運営の維持			
事業目的	国民健康保険事業の健全な運営を推進するため、保険者に対する助言・財政支援を行うとともに、保険医療機関等に対する指導を実施する。						
根拠法令・計画等	国保法第3条、第4条第2項、第5項、第11条、第72条の2、第72条の3第2項、第72条の3の2第2項、第72条の4第3項、第72条の5、第73条、第75条、第82条の2						
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)		
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	14.50人 (0人)	14.50人 (0人)	14.50人 (0人)	14.50人 (0人)	
		非常勤職員(うち地方機関分)	5人 (0人)	5人 (0人)	5人 (0人)	5人 (0人)	
	経費	人件費(a)	161,023 千円	153,490 千円	157,992 千円	159,865 千円	
		事業費(b)	57,037,375 千円	56,478,898 千円	56,744,276 千円	56,127,123 千円	
		公債費(c)	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	
		計(a)+(b)+(c)	57,198,398 千円	56,632,388 千円	56,902,268 千円	56,286,988 千円	
	収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	
	経費のうち、一般財源等		57,094,306 千円	56,550,427 千円	56,783,262 千円	56,205,737 千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	国民健康保険事業が健全に運営されるよう助言及び財政支援等を行う。 主な事業 1 国民健康保険事業指導費:9,397千円 保険者及び保険医療機関等の指導等 2 国民健康保険基盤安定制度負担金:19,232,572千円 保険料(税)軽減額の3/4、平均保険料(税)算定額の一定割合に軽減対象被保険者数を乗じた額の1/4、未就学児保険料(均等割)軽減額の1/4、産前産後保険料(均等割及び所得割)免除額の1/4 3 特定健康診査等国民健康保険組合事業費補助金:6,075千円 特定健康診査及び特定保健指導に係る経費の1/3 4 国民健康保険事業特別会計繰出金:37,789,331千円(国民健康保険財政調整交付金:31,677,791千円) 国民健康保険事業特別会計にて支出する県支出金に要する経費						
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込		
		1	保険料(税)目標収納率達成割合(達成保険者/54保険者)	最終目標	前年度達成割合を上回る		
				6年度	前年度達成割合を上回る	前年度達成割合を上回る(見込)	
				5年度	前年度達成割合を上回る	50.0%(速報値)(実績)	
				最終目標	収支の均衡を保つ		
				6年度	収支の均衡を保つ	収支の均衡を保つ(見込)	
		2	国保会計の経常収支(54保険者の合計)	5年度	収支の均衡を保つ	黒字(速報値)(実績)	
				最終目標	3%以上		
		3	保険料(税)収入に占める保健事業費の割合(54保険者の合計)	6年度	3%以上	3%以上(見込)	
				5年度	3%以上	3.81%(速報値)(実績)	
		4	国保被保険者一人当たりコスト(経常費用/年度未被保険者数)	最終目標	-		
				6年度	-	-(見込)	
				5年度	-	45,618円(実績)	
		5		最終目標			
				6年度		(見込)	
5年度		(実績)					
外部要因等	収納率は、各市町村の個別の事業や収納対策の取組みにより差が生じ、目標収納率を達成できない市町村もある。						
目的の達成に関する評価	C:相当程度進展あり(判断の理由) ◎主要な指標:2(理由:市町村国保特会の財政安定が健全な運営に不可欠なため) ・市町村国保特会の経常収支の均衡を保つことができた。 ・保険料(税)目標収納率達成割合について、前年度達成割合(59.3%)を下回り、目標を達成できなかった。 ・保険料(税)収入に占める保健事業費の割合については、3%を上回り、目標を達成できた。						
コスト指標の増減分析	5年度の国保被保険者の一人当たりコストは、経常費用が増加(1%程度増)している一方、国保被保険者は減少(5%程度減)したため、4年度42,929円に比べ2,689円増加した。						
課題	市町村は、高齢者や低所得者の加入割合が高く、医療費に見合う保険料(税)収入の確保が困難であるという構造的な課題がある。						
今後の方向性	今後も、国民健康保険事業の健全な運営のために、財政支援、助言等を行っていく。						

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	3045	事業名	健康づくり事業			
所属名	保健医療局健康医務部健康対策課	評価責任者	健康対策課長 伊藤 亮一			
		作成責任者	藤原 齡瑠	ダイヤルイン	052-954-6269	
政策名	健康の保持・増進		施策名	健康づくりの推進		
事業目的	県民の健康を増進し疾病を予防するため、生活習慣病対策、がん対策、歯科口腔保健対策等を総合的に推進する。					
根拠法令・計画等	健康増進法、健康日本21(第三次)、第3期健康日本21あいち計画、第4期愛知県がん対策推進計画、第2期歯科口腔保健基本計画 等					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	48.30人 (26人)	52.30人 (28人)	52.30人 (28人)	47.80人 (28.50人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	5人 (1人)	6人 (0人)	6人 (0人)	6人 (0人)
	経費	人件費(a)	500,649 千円	521,420 千円	521,677 千円	564,432 千円
		事業費(b)	804,372 千円	521,577 千円	471,672 千円	461,110 千円
		公債費(c)	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
		計(a)+(b)+(c)	1,305,021 千円	1,042,997 千円	993,349 千円	1,025,542 千円
	収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		4,591 千円	4,591 千円	3,610 千円	2,771 千円
	経費のうち、一般財源等		1,068,700 千円	830,915 千円	783,384 千円	805,626 千円
事業計画の内容及び事業費の内訳	県民の健康を増進し疾病を予防するため、生活習慣病対策、がん対策、歯科口腔保健対策等を総合的に推進する。 1 健康教育活動費:16,391千円(健康教育推進事業費14,749千円) 2 健康増進事業費:257,958千円(健康増進事業費補助金257,858千円) 3 健康長寿あいち推進費:21,940千円(健康日本21あいち推進事業費4,137千円) 4 がん対策費:470,727千円(がん診療連携拠点病院機能強化事業費補助金114,075千円) 5 循環器病対策推進事業費:1,146千円(循環器病対策推進協議会開催費346千円) 6 歯科口腔保健推進費:11,022千円(地域歯科保健活動支援事業費1,859千円) 7 栄養改善指導費:14,028千円(栄養指導費3,089千円) 8 愛知健康づくり振興事業団補助金:7,770千円(補助金) 9 地域健康づくり指導事業補助金:1,910千円(補助金) 10 高齢者口腔機能評価推進事業:1,480千円					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	脳血管疾患の年齢調整死亡率(10万人対)※	最終目標	令和15年度(男性83.2、女性49.4)	
				6年度	男性86.2、女性51.2	男性86.2、女性51.2 (見込)
				5年度	男性38.0、女性24.0	男性87.6、女性52.0 (実績)
		2	特定健康診査実施率(40~74歳受診者数/40~74歳本県人口)	最終目標	令和11年度(70.0%)	
				6年度	63.3%	63.3% (見込)
				5年度	70.0%	61.6% (実績)
		3	がんの年齢調整死亡率(75歳未満、10万人対)	最終目標	令和9年度(男性64.7、女性46.0)	
				6年度	男性70.7、女性49.1	男性70.7、女性49.1 (見込)
				5年度	男性83.2、女性56.5	男性77.2、女性52.3 (実績)
		4	県民一人当たりのコスト(PL経常費用/本県人口)	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
				5年度	-	137円 (実績)
		5	フッ化物洗口を実施している施設の割合	最終目標	令和15年度(40.0%)	
				6年度	30.4%	30.4% (見込)
5年度	40.0%			29.3% (実績)		
外部要因等	世帯構成の変化に伴い高齢者単独世帯が増加し、高齢期における身体機能や生活機能の維持向上が課題となっている。社会経済的条件、身体的条件及び保健医療施設等の地域的偏在といった環境的要因などにより、健康づくりへの取り組みが阻害される。					
目的の達成に関する評価	C:相当程度進展あり(判断理由) ◎主要な指標:1(理由:健康づくり関連事業の成果が指標1に反映されるため) ・脳血管疾患の年齢調整死亡率を平成27年モデルによる直近(2020年)の値と過去の値を比較し減少が図られたため、健康増進施策全体として一定の進展があった。 ※厚生労働省「人口動態統計特殊報告」において、令和2年度以降の年齢調整死亡率の算出方法が変更された。そのため、令和5年度目標値は昭和60年モデル人口、令和6年度目標値は平成27年モデル人口で算出された年齢調整死亡率である。 ・特定健康診査実施率は、普及啓発活動を実施し、受診率は増加している状況ではあるが、目標達成には至らなかった。 ・がん対策事業では、効果的な知識の普及を図り、男女ともに目標を達成した。 ・フッ化物洗口を実施している施設の割合は、フッ化物洗口実施施設の拡大に向けて、啓発活動等を実施したが、目標の達成には至らなかった。					
コスト指標の増減分析	5年度の県民一人当たりのコストは、負担金、補助及び交付金の増加、愛知県人口の減少等により、4年度の136円に比べ、1円増加した。					
課題	全ての県民に生涯にわたり健康づくりに取り組んでもらうためには、子どもから高齢期に至るまで各ライフステージに応じた適切な健康づくり施策を展開する必要がある。また、職域保健の対象者へどのように効果的なアプローチを行うかが課題である。					
今後の方向性	個人の健康づくりは、性年代・所得・職業や地理的条件等に影響を受けるため、対象を絞った健康づくり施策を展開するとともに、行政・企業・関係機関等が連携し、社会全体で個人の健康づくりを支える取組を実施する。					

* 「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	3050	事業名	感染症対策事業			
所属名	保健医療局感染症対策課	評価責任者	感染症対策課長 兼子 利雄			
		作成責任者	五十川 智大	ダイヤルイン	052-954-6626	
政策名	生活衛生の安心・安全の確保		施策名	感染症の発生防止		
事業目的	法律等に基づき、感染症の発生防止・防疫活動を行うことによって、公衆衛生の向上を図るとともに、患者に対し医療給付を行う。					
根拠法令・計画等	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、新型インフルエンザ等対策特別措置法、肝炎対策基本法等					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	182.70人 (157.70人)	257.10人 (170.50人)	257.10人 (170.50人)	361.40人 (265.10人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	5.60人 (2.60人)	14人 (11人)	14人 (11人)	14人 (11人)
	経費	人件費(a)	1,824,350 千円	2,571,271 千円	2,371,036 千円	3,576,842 千円
		事業費(b)	2,006,780 千円	231,920,822 千円	30,234,359 千円	195,428,775 千円
		公債費(c)	100,765 千円	101,370 千円	101,378 千円	80,227 千円
		計(a)+(b)+(c)	3,931,895 千円	234,593,463 千円	32,706,773 千円	199,085,844 千円
	収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		0 千円	36,693 千円	373,970 千円	532,537 千円
	経費のうち、一般財源等		3,013,009 千円	12,190,456 千円	1,091,199 千円	3,542,499 千円
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>法律等に基づき、感染症の発生防止・防疫活動を行うことによって、公衆衛生の向上を図るとともに患者に対して医療給付を行う。</p> <p>1 感染症予防事業費:889,926千円 9 感染症医療給付費:415,723千円</p> <p>2 発生動向調査費:21,845千円 10 予防接種対策費補助金:113,437千円</p> <p>3 結核予防事業費:50,599千円</p> <p>4 特定感染症予防事業費:11,742千円</p> <p>5 肝炎対策費:13,239千円</p> <p>6 新型インフルエンザ対策事業費:247,439千円</p> <p>7 風しん対策費:10,187千円</p> <p>8 新型コロナウイルス感染症対策費:232,643千円</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	二類感染症及び三類感染症の集団発生件数	最終目標	0件	
				6年度	0件	0件 (見込)
				5年度	0件	0件 (実績)
		2	全結核り患率(人口10万人当たり)	最終目標	12.0人	
				6年度	12.0人	12.0人 (見込)
				5年度	12.0人	9.7人 (実績)
		3	保健所における肝炎ウイルス検査の実施	最終目標	607回	
				6年度	607回	607回 (見込)
				5年度	607回	519回 (実績)
	4	県民あたりコスト(PL経常費用/本県人口)	最終目標	-		
			6年度	-	- (見込)	
			5年度	-	4,333円 (実績)	
	5		最終目標			
			6年度		(見込)	
5年度				(実績)		
外部要因等	人や動物等生物のグローバルな移動が原因となって、感染症が発生する場合があります。予測が不可能となっている。法律と国の通知等に基づいて政策を実施している事業である。					
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:1(理由:感染症対策事業として最も適切であるため)</p> <ul style="list-style-type: none"> 二類感染症及び三類感染症の集団発生件数(コロナを除く)は、目標値を達成することができた。 全結核り患率は目標値を達成することができた。 保健所における肝炎ウイルス検査の実施については、目標値を達成することができなかった。 					
コスト指標の増減分析	令和5年度の県民あたりのコストは、新型コロナウイルス感染症関係の費用の減少により令和4年度の26,487円と比べ、22,154円減少した。					
課題	感染症対策は、長期的視点に立ち対策に取り組む必要があり、その対策の効果が即時に現れることはない。この問題を念頭におきつつ、感染症対策はグローバルな視点からの即時対応ができる具体的対策を考えていくことが課題である。					
今後の方向性	引き続き法に基づく感染症の発生防止・防疫活動を行うことによって公衆衛生の向上を図るとともに、危機管理体制の確立に努め、県民の安心安全を確保する。また、患者に対しては医療給付を行い、県民の生活基盤を保障しその向上を図っていく。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	3055	事業名	難病等対策事業			
所属名	保健医療局健康医務部健康対策課	評価責任者	健康対策課長 伊藤 亮一			
		作成責任者	板倉 圭佑	ダイヤルイン	052-954-6270	
政策名	安心できる保健医療サービスの充実		施策名	難病患者、ハンセン病回復者、原爆被爆者の健康回復、生活安定等		
事業目的	難病患者、ハンセン病回復者、原爆被爆者等に対する医療費の助成や日常生活の支援等を実施する					
根拠法令・計画等	難病の患者に対する医療等に関する法律、ハンセン病問題の解決の促進に関する法律、原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律等					
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)	
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	59.90人 (44.60人)	53.70人 (38.40人)	53.70人 (38.40人)	51.90人 (36.60人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	4人 (0人)	6人 (4人)	6人 (4人)	6人 (4人)
	経費	人件費(a)	611,806千円	537,120千円	496,510千円	506,999千円
		事業費(b)	7,648,890千円	6,987,020千円	7,060,008千円	6,584,161千円
		公債費(c)	0千円	0千円	0千円	0千円
		計(a)+(b)+(c)	8,260,696千円	7,524,140千円	7,556,518千円	7,091,161千円
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円	
経費のうち、一般財源等		4,163,931千円	3,752,291千円	3,700,803千円	3,436,417千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>難病患者、ハンセン病回復者、原爆被爆者等に対する医療費の助成や日常生活の支援等を実施する。</p> <p>1 指定難病医療給付費:6,836,767千円(医療費6,729,001千円)</p> <p>2 特定疾患医療給付費:14,773千円(医療費(血清肝炎・肝硬変)5,754千円)</p> <p>3 難病対策費(難病医療提供体制整備事業費):12,959千円(難病コーディネーター設置費6,257千円)</p> <p>4 難病対策費(難病患者地域ケア推進費):3,147千円(医療相談事業費878千円)</p> <p>5 ハンセン病対策費:3,879千円(郷土訪問事業費2,445千円)</p> <p>6 原爆被爆者健康診断費:10,157千円(健康診断費4,837千円)</p> <p>7 その他11事業:767,208千円</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	愛知県出身者入所ハンセン病療養所訪問	最終目標	4か所	
				6年度	4か所	4か所 (見込)
				5年度	4か所	4か所 (実績)
		2	被爆者健康手帳所持者の健康診断受診率	最終目標	23.0%	
				6年度	23.0%	19.0% (見込)
				5年度	23.0%	18.9% (実績)
		3	県難病医療ネットワーク推進事業医療従事者研修会の参加職種数	最終目標	7職種	
				6年度	7職種	7職種 (見込)
				5年度	7職種	7職種 (実績)
		4	難病患者・家族教室開催回数	最終目標	40回	
				6年度	40回	40回 (見込)
				5年度	40回	30回 (実績)
		5	県民当たりコスト(PL経常費用/本県人口)	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
5年度	-			1,010円 (実績)		
外部要因等	前年度と比較して開催回数は増加したものの、引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、患者・家族教室の開催を見合わせるがあった。					
目的の達成に関する評価	<p>C: 相当程度進展あり(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:4(理由:難病患者やその家族である県民に対し、直接、医療費助成制度の周知や日常生活の支援等を図る事業のため。)</p> <p>・主要な指標は目標を下回っているものの、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、前年度と比較して開催回数は伸びており(13回⇒30回)、依然として感染症対策が必要ではあるが、開催回数もより伸びることが見込まれることから、目標達成に向けて進展しているといえるためC評価とした。</p> <p>・被爆者健康手帳所持者の健康診断受診率については、被爆者の高齢化に伴い、既に通院している者が増えたことから目標を下回った。</p>					
コスト指標の増減分析	5年度の県民あたりコストは、医療給付費の増加等により、4年度の944円に比べ、66円増加した。					
課題	愛知県出身者入所ハンセン病療養所訪問については、強制収容のお詫びも含め、お見舞い、励まし、生きる意欲への精神的支援として引き続き訪問する必要がある。被爆者健康手帳所持者の健康診断受診率については、被爆者の高齢化に伴い医療を要する状態にある者が増えており、健康診断を強く勧めることが難しくなっている。難病患者・家族教室については、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したものの、依然として感染症対策が必要なため、適切な開催方法を検討する必要がある。					
今後の方向性	「難病の患者に対する医療等に関する法律」、「ハンセン病問題の解決促進に関する法律」及び「原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律」に従い事業を進めていく。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	3060	事業名	母子保健医療事業費			
所属名	保健医療局健康医務部 健康対策課		評価責任者	健康対策課長 伊藤 亮一		
			作成責任者	坂 恭輔	ダイヤルイン	052-954-6283
政策名	安心して生み育てる社会の実現		施策名	母子保健の推進		
事業目的	小児慢性特定疾病医療費の支給、健やかな妊娠・出産を支援するための相談窓口の設置などにより母子の保健施策の推進を図る。					
根拠法令・計画等	児童福祉法 母子保健法					
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)	
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	36.80人 (29.30人)	33.20人 (26.70人)	33.20人 (26.70人)	34.70人 (28.20人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	1人 (0人)	2人 (0人)	2人 (0人)	2人 (0人)
	経費	人件費(a)	372,265千円	325,096千円	306,259千円	338,243千円
		事業費(b)	1,124,844千円	1,050,890千円	1,032,840千円	1,755,032千円
		公債費(c)	0千円	0千円	0千円	0千円
		計(a)+(b)+(c)	1,497,109千円	1,375,986千円	1,339,099千円	2,093,275千円
	収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		114千円	262千円	70千円	86千円
	経費のうち、一般財源等		1,025,293千円	940,133千円	898,049千円	1,606,631千円
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>小児慢性特定疾病医療費の支給、健やかな妊娠・出産を支援するための相談窓口の設置などにより母子の保健施策の推進を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 母子保健医療推進費:8,008千円(母子保健推進費2,828千円) 児童虐待防止ネットワーク事業費:3,850千円(事業委託費3,844千円) 未熟児養育医療給付費:92,397千円(医療費92,307千円) 小児慢性特定疾病医療給付費:752,492千円(医療費742,670千円) 女性健康支援事業費:19,028千円(事業委託費18,918千円) 不妊・不育専門相談事業費:6,455千円(事業委託費6,438千円) 不育症検査費助成事業費:2,978千円(助成金2,880千円) 先天性代謝異常児等対策費:228,056千円(事業委託費227,822千円) 新生児聴覚検査体制整備費補助金:11,580千円 					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	女性の健康支援事業の1日当たりの電話相談件数	最終目標	2.6件	
				6年度	2.6件	2.6件 (見込)
				5年度	2.6件	2.7件 (実績)
		2	不妊・不育専門相談事業の1日当たりの相談件数	最終目標	1.2件	1.2件 (見込)
				6年度	1.2件	1.2件 (実績)
				5年度	1.2件	1.0件 (実績)
		3	県民一人当たりコスト (PL経常費用/本県人口)	最終目標	-	- (見込)
				6年度	-	- (実績)
				5年度	-	177円 (実績)
	4		最終目標		(見込)	
			6年度		(実績)	
			5年度		(実績)	
	5		最終目標		(見込)	
			6年度		(実績)	
5年度				(実績)		
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	C:相当程度進展あり (判断の理由) ◎主要な指標:1(理由:保健施策の推進を図る上で、欠かせない事業であるため。) ・主要な指標において目標値を上回ったが、不妊・不育専門相談事業において目標値をやや下回った。					
コスト指標の増減分析	令和5年度の県民一人当たりのコストは、不妊治療の保険適用に伴う助成金の減少等により、令和4年度の287円に比べ110円減少した。					
課題	指標になっている事業や相談窓口の活用について、より一層周知する必要がある。					
今後の方向性	指標について、目標が達成されるよう、事業や相談窓口等について、積極的に周知する。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	3090	事業名	あいち健康の森健康科学総合センター管理運営事業			
所属名	保健医療局健康医務部 健康対策課	評価責任者	健康対策課長 伊藤 亮一			
		作成責任者	貞松 信子	ダイヤルイン	052-954-6870	
政策名	あいち健康の森健康科学総合センターの管理運営	施策名	あいち健康の森健康科学総合センター管理運営事業費			
事業目的	県民の健康づくりを総合的に推進する拠点施設である「あいち健康の森健康科学総合センター」を適正に管理運営する。					
根拠法令・計画等	あいち健康の森健康科学総合センター条例					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	4.40人(0人)	4.40人(0人)	4.40人(0人)	4.40人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	経費	人件費(a)	43,115千円	41,657千円	41,823千円	42,378千円
		事業費(b)	1,074,305千円	1,050,937千円	1,040,364千円	1,005,890千円
		公債費(c)	744,723千円	744,723千円	744,824千円	744,800千円
		計(a)+(b)+(c)	1,862,143千円	1,837,317千円	1,827,012千円	1,793,068千円
	収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		14,105千円	9,104千円	11,226千円	9,807千円
経費のうち、一般財源等		788,230千円	787,156千円	793,986千円	787,217千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	あいち健康の森健康科学総合センターの管理運営について、(公財)愛知県健康づくり振興事業団及び同団体と(株)トヨタエンタプライズの共同体を指定管理者として指定し、県民の健康づくりを推進する。 1 管理指導事務費:321千円(温泉配管使用料160千円) 2 管理運営委託費:1,073,984千円 (任意指定(旧公募)598,556千円 任意指定475,428千円)					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	あいち健康の森健康科学総合センター(健康宿泊館宿泊者数)	最終目標	6年度 10,481人	
				6年度	10,481人	20,613人 (見込)
				5年度	10,481人	16,841人 (実績)
		2	あいち健康の森健康科学総合センター(健康づくりリーダー 総養成者数)	最終目標	15年度 3,700人	
				6年度	3,300人	3,300人 (見込)
				5年度	3,250人	3,277人 (実績)
		3	あいち健康の森健康科学総合センター(健康開発館アスレ利用者)	最終目標	6年度 40,000人	
				6年度	40,000人	42,816人 (見込)
				5年度	34,000人	35,124人 (実績)
		4	あいち健康の森健康科学総合センター(健康プラザ利用者数)	最終目標	6年度 121,674人	
				6年度	121,674人	142,453人 (見込)
				5年度	114,774人	115,160人 (実績)
		5	県民あたりコスト (PL経常費用/本県人口)	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
5年度	-			214円 (実績)		
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	B:目標達成(判断の理由) ◎主要な指標:4(理由:指定管理の計画数値であるため) ・新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う制限緩和の影響もあり、すべての指標で目標を超える利用者等を集めることができたため、B評価とした。					
コスト指標の増減分析	5年度の県民あたりコストは、管理運営委託費が増加したこと等により、4年度205円に比べ9円増加した。					
課題	光熱水費や施設管理費の削減及び効果的な業務の執行により、経費削減を図りつつ、県民の健康づくりを支援するために施設の機能充実や利用促進に努めていく必要がある。					
今後の方向性	あいち健康プラザは、本県の健康増進法に基づく行動計画である「健康日本21あいち計画」において、県民の健康づくりを支援する施設として位置付けて運営してきており、これまで行ってきた健康づくり支援サービスに加えて、高齢者の認知症予防の取組などを拡充し、利用者の増加に努めていく。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	3175	事業名	後期高齢者医療事業			
所属名	保健医療局健康医務部 国民健康保険課		評価責任者	国民健康保険課長 杉浦 嘉一郎		
			作成責任者	大林 恵	ダイヤルイン 052-954-6278	
政策名	高齢者が健やかで生きがいを持って暮らせる社会の実現		施策名	高齢者医療受診機会の確保		
事業目的	後期高齢者医療制度の運営主体である愛知県後期高齢者医療広域連合及び窓口業務を行う県内市町村に対し、助言及び財政支援を行う。					
根拠法令・計画等	高齢者の医療の確保に関する法律第96条					
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)	
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	2.50人(0人)	2.50人(0人)	2.50人(0人)	2.50人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	経費	人件費(a)	24,860千円	24,032千円	23,912千円	24,027千円
		事業費(b)	101,930,100千円	91,418,808千円	94,637,754千円	87,987,930千円
		公債費(c)	0千円	0千円	0千円	0千円
		計(a)+(b)+(c)	101,954,960千円	91,442,840千円	94,661,666千円	88,011,957千円
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		425,302千円	19,836千円	19,836千円	19,836千円	
経費のうち、一般財源等		99,958,864千円	91,302,137千円	94,620,838千円	87,971,943千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>高齢者の適切な医療の確保を図るため、後期高齢者医療制度の運営主体である愛知県後期高齢者医療広域連合及び窓口業務を行う県内市町村に対し、助言及び財政支援を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 後期高齢者医療事業費:77,770,217千円(後期高齢者医療費負担金:77,769,318千円) 後期高齢者医療保険基盤安定制度負担金:15,162,143千円 後期高齢者医療高額医療費負担金:6,676,342千円 後期高齢者医療財政安定化基金積立金:1,278,113千円(新規積立金:1,275,906千円、基金利子収益積立金:2,207千円) 後期高齢者医療財政安定化基金事業交付金:1,043,285千円 					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	愛知県後期高齢者医療広域連合の経常収支の均衡を保つ	最終目標	総収支差が黒字	
				6年度	総収支差が黒字	総収支差が黒字 (見込)
				5年度	総収支差が黒字	総収支差が黒字 (実績)
		2	後期高齢者医療制度の運営に関する実地による技術的助言の実施	最終目標	13市町村以上	
				6年度	13市町村以上	13市町村以上 (見込)
				5年度	13市町村以上	13市町村 (実績)
		3	事業対象者当たりコスト(経常費用÷県内被保険者数)	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
				5年度	-	86,687円 (実績)
		4	事業対象者当たり事務コスト((費用-負担金等)÷被保険者数)	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
				5年度	-	86,649円 (実績)
		5	県民あたりコスト(PL経常費用÷本県人口)	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
5年度	-			12,612円 (実績)		
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	<p>B:目標達成(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:1(理由:制度を運営する愛知県後期高齢者医療広域連合の財政状況に関する指標のため)</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域連合の経常収支の均衡を保つことができた。 全市町村に対し、後期高齢者医療事務の運営に関する技術的助言を行った。(13市町村実地、41市町村書面) 					
コスト指標の増減分析	<ul style="list-style-type: none"> 5年度の事業対象者当たりコストは、被保険者一人当たり医療費の増加等により、4年度83,786円に比べ2,901円増加した。 5年度の事業対象者当たり事務コストは、被保険者一人当たり医療費の増加等により、4年度83,748円に比べ2,901円増加した。 5年度の県民あたりコストは、被保険者数の増加等により、4年度11,707円に比べ905円増加した。 					
課題	今後、75歳以上の後期高齢者人口の増加により、後期高齢者医療に係る医療費の増加が見込まれる。					
今後の方向性	後期高齢者医療制度が適切に運営され、愛知県後期高齢者医療広域連合の経常収支の均衡が保たれるよう、引き続き、広域連合等への助言及び必要な財政支援を行う。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	3205	事業名	自殺・ひきこもり対策事業			
所属名	保健医療局健康医務部 医務課こころの健康推進室		評価責任者	こころの健康推進室長 鈴木 陽子		
			作成責任者	荒川 明宏	ダイヤルイン 052-954-6621	
政策名	障害者の主体性を尊重した保健福祉サービスの確立		施策名	こころの健康問題への対応		
事業目的	相談の実施、相談に対応できる人材の養成や関係団体との連携等に関する事業の実施により、総合的な自殺・ひきこもり対策を推進する。					
根拠法令・計画等	自殺対策基本法、子ども・若者育成支援推進法、愛知県自殺対策推進計画、愛知県のひきこもり対策の推進について(報告書)					
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)	
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	36.90人 (30.50人)	39.90人 (32.50人)	39.90人 (32.50人)	40.40人 (34人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	3人 (1人)	1.40人 (1人)	1.40人 (1人)	1.40人 (1人)
	経費	人件費(a)	384,837 千円	392,541 千円	368,152 千円	391,183 千円
		事業費(b)	222,227 千円	207,694 千円	124,726 千円	134,400 千円
		公債費(c)	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
		計(a)+(b)+(c)	607,064 千円	600,235 千円	492,878 千円	525,583 千円
	収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
経費のうち、一般財源等		402,318 千円	400,453 千円	391,582 千円	393,716 千円	
<p>事業計画の内容及び事業費の内訳</p> <p>自殺・ひきこもり対策を効果的に推進するため、総合的に事業を行う。</p> <p>1 自殺・ひきこもり対策費:55,709千円(自殺対策事業費51,918千円、ひきこもり対策推進事業費3,791千円) 2 地域自殺対策強化事業費補助金:166,518千円</p>						
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)		目標年度	目標値	実績値・見込
		1	自殺死亡率 (人口10万人当たりの年間自殺者数)	最終目標	13.0以下	
				6年度	13.5以下	13.5以下 (見込)
				5年度	13.8以下	16.0 (実績)
		2	自殺対策に携わる人材 (ゲートキーパー)養成数	最終目標	累計38,000人以上	
				6年度	累計35,000人以上	累計37,000人以上 (見込)
				5年度	累計34,000人以上	累計36,299人 (実績)
		3	県民当たりコスト (PL経常費用/本県人口)	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
				5年度	-	66円 (実績)
	4		最終目標			
			6年度		(見込)	
			5年度		(実績)	
	5		最終目標			
			6年度		(見込)	
5年度				(実績)		
外部要因等	自殺は経済情勢や雇用環境などに大きく影響を受ける。					
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり(判断理由)</p> <p>◎主要な指標:1(理由:愛知県自殺対策推進計画で掲げる目標であるため)</p> <p>・推進計画を策定し取組を進めているため、管理事業全体としては相当程度進展している。</p> <p>・自殺対策事業については、電話相談窓口や対面相談などの相談事業を継続的に実施することにより、県民へのこころの健康のケア対策を推進し、自殺者数が減少している。また、各種研修等の実施を通じ、ゲートキーパーを養成したことにより、目標を達成した。</p>					
コスト指標の増減分析	令和5年度の県民当たりのコストは、市町村への補助金交付額の減に伴い事業費が減少したことにより、令和4年度72円と比べ6円減少した。					
課題	自殺対策は、精神保健分野のみで解決していけるものではなく、自殺を誘引する様々な社会的要因に対応していく必要がある。					
今後の方向性	業務の性質上、直接的な効果検証は困難であるが、推進計画等に記載した個別事業の進捗状況を毎年確認しながら着実に事業を実施し、さらなる自殺率の減を目指す。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	3240	事業名	環境衛生指導事業				
所属名	保健医療局生活衛生部	評価責任者	生活衛生課長 森 一明				
	生活衛生課	作成責任者	加藤 慶一	ダイヤルイン	052-954-6299		
政策名	生活衛生の安心・安全の確保		施策名	環境衛生の向上			
事業目的	生活衛生関係営業に対する衛生指導及び営業指導並びに衛生検査所の監視・指導等を行う。						
根拠法令・計画等	生活衛生関係営業の運営の適正化及び振興に関する法律、理容師法・美容師法、臨床検査技師等に関する法律						
従事人員・経費等	区 分	予算額		決算額(C/F)			
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度		
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	19.40人(9.80人)	27.60人(9.50人)	27.60人(9.50人)	28.30人(10.20人)	
		非常勤職員(うち地方機関分)	7.20人(6.20人)	3.70人(0.70人)	3.70人(0.70人)	3.70人(0.70人)	
	経費	人件費(a)	216,786千円	273,166千円	251,408千円	265,949千円	
		事業費(b)	60,060千円	1,607,702千円	1,212,686千円	1,372,938千円	
		公債費(c)	0千円	172,234千円	173,503千円	78,163千円	
		計(a)+(b)+(c)	276,846千円	2,053,102千円	1,637,597千円	1,717,051千円	
		収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)	10,432千円	10,432千円	11,181千円	6,047千円	
		経費のうち、一般財源等	253,657千円	540,951千円	454,267千円	330,308千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>環境衛生の向上のため、生活衛生関係営業に対する衛生指導及び営業指導並びに衛生検査所の監視・指導等を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 環境保健対策費:571千円(健康住宅普及促進費334千円) 各種営業衛生指導費:37,078千円(生活衛生関係営業補助金25,515千円、監視指導費11,563千円) 衛生検査所指導費:1,375千円(精度管理指導269千円、外部精度管理委託1,025千円) 海水浴場・プール衛生指導費:876千円(海水浴場衛生指導費366千円、プール等衛生指導費510千円) 生活衛生営業振興対策費補助金:8,500千円(生活衛生営業振興対策費補助金8,500千円) 公衆浴場設備整備費補助金:11,660千円(設備整備費補助金11,400千円、活性化促進事業費補助金260千円) 						
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)		目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	生活衛生関係営業施設における優良施設の割合(%)	最終目標	100%		
				6年度	100%	100%	(見込)
				5年度	100%	99.7%	(実績)
		2	生活衛生営業者数(当該年度営業者数/前年度営業者数×100)	最終目標	減少率0%		
				6年度	減少率0%	減少率0%	(見込)
				5年度	減少率0%	12.4%増加	(実績)
		3	公衆浴場施設の修繕補助申請率(申請施設数/全施設数×100)	最終目標	95.0%		
				6年度	95.0%	95.0%	(見込)
				5年度	95.0%	94.0%	(実績)
		4	県民(政令市・中核市除く)一人あたりのコスト(PL経常費用/本県人口(政令市・中核市除く))	最終目標	-		
				6年度	-	-	(見込)
				5年度	-	402円	(実績)
		5		最終目標			
				6年度			
5年度							
外部要因等	なし						
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:1(理由:日常生活に関係のある生活衛生関係営業施設の衛生管理状況を示す指標であるため)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活衛生関係営業施設等での健康被害の発生はなく管理事業全体としては目標達成に向け進展があった。 各種営業衛生指導費事業については、科学的・広域的な監視・指導を行ったが、営業者の管理不備等により目標を達成できなかった。 生活衛生営業振興対策費補助金事業については、業界の振興を図り、営業者数の増加につながった。 公衆浴場設備整備費補助金事業については、廃業や経営の悪化、後継者問題により、設備整備が進まず、公衆浴場施設の修繕補助申請率の目標を達成できなかった。 						
コスト指標の増減分析	5年度の県民(政令市・中核市除く)当たりのコストは、生活基盤施設耐震化等補助金の減額等により、4年度448円に比べ46円減少した。						
課題	自主衛生管理の推進による生活衛生関係営業者の衛生水準の向上を図ることが課題である。						
今後の方向性	生活衛生関係営業施設等の監視・指導を継続的に行うとともに、施設の自主衛生管理を推進していく。また、補助金事業を引き続き実施し、施設等の衛生環境の確保を図る。						

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	3245	事業名	食品衛生指導事業			
所属名	保健医療局生活衛生部 生活衛生課	評価責任者	生活衛生課長 森 一明			
		作成責任者	野垣 良太	ダイヤルイン	052-954-6249	
政策名	生活衛生の安心・安全の確保		施策名	食品の衛生の確保		
事業目的	食品関係営業者・施設に対する監視指導、食品等の収去検査・衛生対策、食の安全・安心の推進、調理師等試験・免許に関する事業を行う。					
根拠法令・計画等	食品衛生法、調理師法、製菓衛生師法、愛知県食品衛生条例、愛知県ふぐ取扱い規制条例					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	102.50人 (75.70人)	100.30人 (86.20人)	100.30人 (86.20人)	106.30人 (92.20人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	4.90人 (2.90人)	5人 (3人)	5人 (3人)	5人 (3人)
	経費	人件費(a)	1,024,686千円	968,131千円	987,105千円	1,095,379千円
		事業費(b)	126,514千円	132,710千円	112,713千円	103,509千円
		公債費(c)	163千円	0千円	167千円	4千円
		計(a)+(b)+(c)	1,151,363千円	1,100,841千円	1,099,985千円	1,198,892千円
		収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)	162,280千円	160,207千円	148,715千円	161,909千円
		経費のうち、一般財源等	948,906千円	898,463千円	935,485千円	1,021,079千円
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>県内の食の安全・安心を確保するため、食品営業施設への許可、監視及び指導を行うほか、流通食品の抜き取り検査、食中毒の調査、食肉衛生対策、食品衛生に関するリスクコミュニケーション、調理師免許関連等の事業を行う。</p> <p>1 食品衛生監視指導費:25,060千円(監視指導事業費9,324千円、熱媒体人体影響調査研究事業費12,105千円)</p> <p>2 食品検査費:32,394千円(食品等検査費24,229千円、食中毒調査費6,988千円、食品検査業務管理費1,177千円)</p> <p>3 食の安全・安心推進事業費:7,724千円(改正食品衛生法普及啓発推進事業費709千円、輸入食品等の安全確保対策事業費6,227千円)</p> <p>4 営業許可事務費:5,942千円(営業許可事務費3,905千円、食品衛生相談事業費1,701千円、食品衛生総合情報処理システム改修費336千円)</p> <p>5 調理師等試験免許費:4,440千円(調理師免許費1,511千円)</p> <p>6 その他5事業:50,954千円(食品衛生検査所費:20,569千円、食品科学調査費:25,640千円)</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	大規模食中毒(患者数10名以上)の発生件数	最終目標	過去5年間の発生件数の平均値以下	
				6年度	4件以下	4件以下 (見込)
		5年度	5件以下	4件 (実績)		
		2	行政処分(回収命令及び廃棄命令の合計)の件数	最終目標	過去5年間の発生件数の平均値以下	
				6年度	4件以下	4件以下 (見込)
		5年度	4件以下	1件 (実績)		
		3	あいち食の安全・安心推進アクションプランにおけるA評価割合	最終目標	前年度の実績以上	
				6年度	75%以上	75%以上 (見込)
		5年度	75%以上	75% (実績)		
4	生活衛生課資格試験・免許のページのホームページへのアクセス件数	最終目標	前年度件数以上			
		6年度	14,999件以上	14,999件以上 (見込)		
5年度	16,479件以上	14,999件 (実績)				
5	県民(政令市・中核市除く)一人当たりのコスト(PL経常費用/本県人口(政令市・中核市除く))	最終目標	—			
		6年度	—	— (見込)		
5年度	—	289円 (実績)				
外部要因等	新型コロナウイルス感染症の影響により、あいち食の安全・安心アクションプランの1つのアクションについて、評価できなかった。					
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:3(理由:本県の食の安全・安心に係る事業全般の達成状況を示す指標であるため)</p> <p>・一部の指標で目標を達成できなかったが、主要な指標が目標値を達成したため、管理事業全体として相当程度進展ありとした。</p> <p>・大規模食中毒の発生件数及び行政処分の件数は、食品関係営業者・施設に対する監視指導等の実施により、目標を達成した。</p> <p>・あいち食の安全・安心推進アクションプランにおけるA評価割合は個別のアクションについて積極的に推進を図ったことで、目標を達成することができた。</p> <p>・生活衛生課資格試験・免許のページのホームページへのアクセス件数は、調理師試験受験者数760人に対し、アクセス数が14,999件であることから、試験の実施時期や受験方法等の周知は十分であると推測される。しかしながら、前年度件数以上としている目標値を下回った。</p>					
コスト指標の増減分析	5年度の県民(政令・中核市除く)1人当たりのコストは、給与関係費、退職手当引当金繰入額の減少等により、4年度317円に比べ28円減少した。					
課題	あいち食の安全・安心アクションプランの評価指標の内、評価が下がってしまった項目については、評価を上げるよう推進していく必要がある。					
今後の方向性	あいち食の安全・安心アクションプランは、令和3年6月に改訂し、食品衛生法の改正を反映するとともに、これまでに見出された課題を踏まえて取り組みを整理しており、個別のアクションについて、引き続き積極的に推進を図る。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	3250	事業名	獣医務事業			
所属名	保健医療局生活衛生部 生活衛生課		評価責任者	生活衛生課長 森 一明		
			作成責任者	大平 久登	ダイヤルイン 052-954-6298	
政策名	生活衛生の安心・安全の確保		施策名	獣医務対策の推進		
事業目的	化製場、動物処理場及び食鳥処理場に対する監視・指導、食鳥検査、狂犬病予防対策に関する事業を行う。					
根拠法令・計画等	化製場等に関する法律、食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律、狂犬病予防法、動物の愛護及び管理に関する法律					
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)	
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	
			4年度			
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	5.10人 (2.50人)	6.30人 (3.60人)	6.30人 (3.60人)	6.50人 (3.80人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	1.10人 (0.10人)	1人 (0人)	1人 (0人)	1人 (0人)
	経費	人件費(a)	53,942 千円	62,741 千円	57,499 千円	62,044 千円
		事業費(b)	45,025 千円	45,469 千円	41,605 千円	41,992 千円
		公債費(c)	2,809 千円	2,850 千円	2,850 千円	2,892 千円
計(a)+(b)+(c)		101,776 千円	111,060 千円	101,953 千円	106,928 千円	
収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		173 千円	173 千円	212 千円	291 千円	
経費のうち、一般財源等		99,046 千円	108,330 千円	57,499 千円	67,961 千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	化製場、動物処理場及び食鳥処理場に対する監視・指導、食鳥検査、狂犬病予防対策に関する事業を行う。 1 化製場等指導費:105千円 2 食鳥処理検査指導費:27,293千円(法に基づき(公社)愛知県獣医師会へ食鳥検査委託25,695千円) 3 狂犬病予防費:17,627千円(抑留犬回収料11,143千円)					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)		目標年度	目標値	実績値・見込
		1	犬の捕獲頭数	最終目標	3,000頭	
				6年度	3,000頭	3,000頭 (見込)
				5年度	3,000頭	693頭 (実績)
		2	化製場の監視件数	最終目標	600件	
				6年度	600件	600件 (見込)
				5年度	600件	127件 (実績)
		3	食鳥の検査率(検査羽数÷検査対象羽数×100)	最終目標	100%	
				6年度	100%	100% (見込)
				5年度	100%	100% (実績)
		4	県民(政令市・中核市除く)一人あたりのコスト(PL経常費用/本県人口(政令市・中核市除く))	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
				5年度	-	28円 (実績)
		5		最終目標		
				6年度		(見込)
	5年度				(実績)	
	外部要因等	住民からの通報及び苦情等の減少により、犬の捕獲頭数及び化製場の監視件数が減少した。				
	目的の達成に関する評価	C:相当程度進展あり(判断の理由) ◎主要な指標:3(理由:本県の食の安全・安心に係る重要な指標であるため) ・一部の指標で目標が達成できなかったが、外部要因によるものであり、獣医務事業全体としては、相当程度の進展があった。 ・食鳥検査指導事業については、目標を達成することができた。 ・狂犬病予防事業については、通報数が少なく、犬の捕獲頭数の目標値に到達できなかった。				
コスト指標の増減分析	5年度の県民一人あたりのコストは、食鳥検査施設の長寿命化工事の完了に伴う修繕費の減少等により、4年度の49円に比べ、21円減少した。					
課題	犬の捕獲頭数は一定数の実績があり、狂犬病発生防止のため、狂犬病に関する知識の普及啓発や、飼い主への遺棄防止等適正飼養に関する普及啓発を、継続して実施していく必要がある。					
今後の方向性	狂犬病予防費について、国内での狂犬病発生防止のため、今後も犬の捕獲等業務を実施していく。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	3255	事業名	動物愛護センター管理運営事業			
所属名	保健医療局生活衛生部 生活衛生課	評価責任者	生活衛生課長 森 一明			
		作成責任者	大平 久登	ダイヤルイン	052-954-6298	
政策名	生活衛生の安心・安全の確保		施策名	動物愛護センター管理運営		
事業目的	動物愛護センターの運営、動物の愛護及び管理対策に関する事業を行う。					
根拠法令・計画等	狂犬病予防法、動物の愛護及び管理に関する法律及び条例					
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)	
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	39.60人 (37人)	39.70人 (37人)	39.70人 (37人)	39.70人 (37人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	6人 (6人)	6人 (6人)	6人 (6人)	6人 (6人)
	経費	人件費(a)	438,006千円	418,717千円	354,263千円	364,787千円
		事業費(b)	78,843千円	89,463千円	61,040千円	41,245千円
		公債費(c)	0千円	106千円	137千円	21,213千円
		計(a)+(b)+(c)	516,849千円	508,286千円	415,441千円	427,245千円
収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		8,127千円	8,127千円	5,142千円	5,774千円	
経費のうち、一般財源等		481,944千円	465,056千円	354,263千円	420,762千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>動物愛護センターにおいて動物の虐待防止などの動物愛護に関する事業及び猛獣等の飼養の規制などの動物による危害の防止に関する事業を行う。</p> <p>1 運営費:36,803千円(光熱費14,825千円、業務委託費13,498千円、その他運営費8,480千円) 2 動物愛護管理費:13,579千円(動物愛護普及啓発事業費1,163千円、犬猫譲渡事業費1,007千円、動物取扱業等監視指導事業費2,336千円、負傷動物治療支援業務委託事業費1,822千円など) 3 施設整備費:24,863千円(大収容区画空調設備等設置工事) 4 譲渡推進施設検討調査費:3,598千円(調査委託費2,696千円)</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	動物愛護週間行事の実施回数	最終目標	1回	
				6年度	1回	1回 (見込)
				5年度	1回	1回 (実績)
		2	動物愛護週間行事の参加人数	最終目標	前年度比増	
				6年度	前年度比増	1,860人 (見込)
				5年度	前年度比増	1,858人 (実績)
		3	犬及び猫の引取数又は処分数	最終目標	引取1,033頭、処分1,430頭	
				6年度	引取1,038処分1,437	引取1,038処分1,437 (見込)
				5年度	引取1,039処分1,438	引取239処分293 (実績)
		4	県民(政令市・中核市除く)一人あたりのコスト(PL経常費用/本県人口(政令市・中核市除く))	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
				5年度	-	120円 (実績)
		5		最終目標		
				6年度		(見込)
5年度				(実績)		
外部要因等	新型コロナウイルス感染症の、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づく五類感染症移行に伴い、動物愛護週間行事への参加人数が増加した。					
目的の達成に関する評価	A: 目標超過達成 (判断の理由) ◎主要な指標: 3 (理由: 動物愛護の推進に係る代表的な数値であるため) ・管理事業全体としては、いずれの指標も目標値を超えることができた。 ・動物愛護週間事業について、当初の目標を超えた数の参加者を集めることができた。 ・犬猫引取事業については、引取相談があった際に、飼い主に終生飼養の義務について説諭を行う等行ったことにより、犬猫の引取数及び処分数を大幅に減少させることができた。					
コスト指標の増減分析	5年度の県民一人あたりのコストは、殺処分数が減少したこと等により、4年度の123円に比べ、3円減少した。					
課題	飼い主による犬猫の引取相談が多数寄せられていることから、引き続き飼い主に対して、終生飼養の義務の徹底について啓発していく必要がある。					
今後の方向性	引き続き、終生飼養の義務の徹底について啓発を行い、さらなる犬猫の引取数の減少を図るとともに、殺処分数の減少のための譲渡頭数の増加を図る。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	3260	事業名	衛生研究所管理運営事業			
所属名	保健医療局 生活衛生部生活衛生課	評価責任者	生活衛生課長 森 一明			
		作成責任者	佐々木 駿吾	ダイヤルイン	052-954-6300	
政策名	生活衛生の安心・安全の確保		施策名	衛生研究所の管理運営		
事業目的	本県における公衆衛生行政の科学的・技術的中核機関としての愛知県衛生研究所の運営を行う。					
根拠法令・計画等	地域保健法第26条					
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)	
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	23.40人 (20.70人)	19.10人 (16.40人)	19.10人 (16.40人)	25.50人 (22.80人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	6人 (6人)	6人 (6人)	6人 (6人)	6人 (6人)
	経費	人件費(a)	253,145千円	202,163千円	187,030千円	248,620千円
		事業費(b)	117,493千円	117,840千円	104,206千円	105,957千円
		公債費(c)	250,246千円	155,758千円	156,038千円	156,437千円
		計(a)+(b)+(c)	620,884千円	475,761千円	447,274千円	511,014千円
	収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		16,601千円	16,242千円	17,419千円	15,325千円
経費のうち、一般財源等		601,008千円	456,585千円	429,223千円	495,459千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	地域保健法(昭和22年法律第101号)第26条に基づく衛生研究所の事業(調査研究、試験検査、研修指導及び公衆衛生情報等の収集・解析・提供)の運営及び衛生研究所の庁舎維持管理業務を行う。 1 運営費:99,673千円(光熱水費 38,277千円、整備等事業費 35,830千円 等) 2 検査費:8,832千円(試験検査費 8,832千円) 3 調査研究指導費:8,988千円(情報指導分析事業費 3,304千円、調査研究費 1,697千円 等)					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	運営委員会における調査研究課題における承認率	最終目標	常に100%を目標とする	
				6年度	100%	100% (見込)
				5年度	100%	100% (実績)
		2	社会の需要に応じた高度な検査の実施	最終目標	常に100%を目標とする	
				6年度	100%	100% (見込)
				5年度	100%	100% (実績)
		3	衛生研究所ホームページへのアクセス件数	最終目標	過去3年間の平均接続数の5%増を目標	
				6年度	1,980,000件	1,889,166件 (見込)
				5年度	1,700,000件	2,180,789件 (実績)
		4	調査研究課題の実施	最終目標	常に100%を目標とする	
				6年度	100%	100% (見込)
				5年度	100%	100% (実績)
		5	県民(政令市・中核市除く)一人当たりのコスト(PL経常費用/本県人口(政令市・中核市除く))	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
5年度	-			80円 (実績)		
外部要因等	ノロウイルス及び腸管出血性大腸菌等を原因とする健康危機事例の発生に伴う検査需用の増加及び衛生研究所のホームページへのアクセス件数の増減					
目的の達成に関する評価	B: 目標達成 (判断の理由) ◎主要な指標:1(理由:本管理事業の根幹となるものであるため) ・全ての指標・目標において、100%以上の実績を達成することができたため、管理事業全体として、目標を達成することができた。 ・衛生研究所の運営事業については、公衆衛生の向上に寄与する調査研究課題を設定することができたため、運営委員会における調査研究課題の承認率が100%となり、目標を達成することができた。 ・試験検査事業については、試験検査の精度管理を適切に実施したことによって、社会の需要に応じた高度な検査の実施を目標どおり達成した。 ・情報指導分析事業については、県民の関心が寄せられている課題についての的確な情報提供を行ったため、ホームページのアクセス件数が目標を達成することができた。					
コスト指標の増減分析	5年度の県民(政令市・中核市除く)当たりのコストは、事業費の減額等により、4年度103円に比べ23円減少した。					
課題	健康危機管理事例の発生等に関わらず、ホームページのアクセス件数の目標を達成できるように研究課題の設定とホームページの内容を検討する。					
今後の方向性	学識経験者等から構成される運営委員会において、公衆衛生の向上に寄与する研究として承認される調査研究課題について、県民から関心が寄せられる課題を設定し、その調査研究結果及びその他公衆衛生情報の収集・解析結果を適宜ホームページに掲載する。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	3265	事業名	保健所管理運営事業			
所属名	保健医療局健康医務部 医療計画課		評価責任者	医療計画課長 小河 義明		
			作成責任者	菊川 拓哉	ダイヤルイン 052-954-6266	
政策名	健康の保持・増進		施策名	保健所の管理運営		
事業目的	地域保健法の規定により県が設置する保健所の管理運営を行う。11保健所6保健分室2駐在の施設維持管理等の経費、運営費、給与等 person 費等					
根拠法令・計画等	地域保健法 地域保健対策の推進に関する基本的な指針					
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)	
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	59.90人 (55.80人)	60.20人 (55.90人)	60.20人 (55.90人)	59.40人 (55.30人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	33人 (33人)	23人 (23人)	23人 (23人)	24人 (24人)
	経費	人件費(a)	790,770 千円	716,539 千円	706,542 千円	727,633 千円
		事業費(b)	183,030 千円	187,566 千円	489,653 千円	155,097 千円
		公債費(c)	91,528 千円	91,260 千円	99,341 千円	91,371 千円
		計(a)+(b)+(c)	1,065,328 千円	995,365 千円	1,295,535 千円	974,101 千円
	収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		5,097 千円	5,097 千円	3,916 千円	3,732 千円
	経費のうち、一般財源等		1,046,671 千円	977,058 千円	1,240,553 千円	787,803 千円
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>1 11保健所6保健分室2駐在の運営管理・光熱水費、保守管理費等保健所の囑託 予算:179,937千円</p> <p>2 保健衛生に関する知識の普及と向上を図るため、広報紙の発行及び地域の特色を生かした情報発信事業を行う。 予算:794千円</p> <p>3 地域の健康課題の解決に向け、広域的・専門的・技術的拠点としての保健所の機能を強化し、関係機関との連携を促進する事業を実施する。 予算:2,299千円</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)		目標年度	目標値	実績値・見込
		1	県民当たりコスト (PL経常費用／本県人口)	最終目標	—	
				6年度	—	(見込)
				5年度	—	179円 (実績)
		2	広報紙の配布率	最終目標	毎年度100%	
				6年度	100%	100% (見込)
				5年度	100%	87.3% (実績)
		3	保健活動強化事業の実施回数	最終目標	毎年度67回	
				6年度	67回	67回 (見込)
				5年度	72回	64回 (実績)
		4		最終目標		
				6年度		(見込)
				5年度		(実績)
		5		最終目標		
				6年度		(見込)
5年度				(実績)		
外部要因等	新型コロナウイルス感染症対策による業務の縮小・中止により、保健所広報活動事業と保健活動強化事業の実績が目標値よりも低い数値となった。					
目的の達成に関する評価	C:相当程度進展あり (判断の理由) ◎主要な指標 2 (理由:県民に対して保健衛生に関する知識の普及と向上を図る、運営上重要な活動であるため) ・広報誌の活動実績については、新型コロナウイルス感染症対策を鑑み、事業を縮小・中止したことにより、目標を下回った。 ・保健活動強化事業については、新型コロナウイルス感染症対策を鑑み、事業を縮小・中止したことにより、目標回数を下回った。					
コスト指標の増減分析	5年度の県民当たりコストは、保健所の修繕工事にかかる費用が少なかったことにより、4年度の240円に比べ61円減少した。					
課題	・各種経費について、一層の効率的執行によりコスト削減に努める。 ・保健所ホームページを積極的に活用し、コストの削減に努める。市町村等の機関が発行する広報誌等を利用し、効果的かつ効率的に広報を行う。 ・保健所において、今後も地域の健康課題の解決に向けた事業を実施する。					
今後の方向性	地域住民の保健衛生に関する知識の普及・向上等のため、戸別配布の広報紙により保健衛生及び保健所業務に関する情報の提供を行う必要がある。また、保健衛生及び保健所業務に関する情報をホームページで、常時、広く発信していく必要がある。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	3270	事業名	試験検査事業			
所属名	保健医療局 生活衛生部生活衛生課		評価責任者	生活衛生課長 森 一明		
			作成責任者	佐々木 駿吾	ダイヤルイン 052-954-6300	
政策名	生活衛生の安心・安全の確保		施策名	保健所における試験検査の適正実施		
事業目的	地域住民、各種事業者からの依頼検査を始め、保健所における衛生行政を科学的・技術的な面から支える重要な検査を行う					
根拠法令・計画等	地域保健法第6条					
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)	
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	13.80人 (11.10人)	13.70人 (11人)	13.70人 (11人)	13.20人 (10.50人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	1人 (1人)	4人 (4人)	4人 (4人)	4人 (4人)
	経費	人件費(a)	139,739 千円	143,810 千円	131,285 千円	133,791 千円
		事業費(b)	35,218 千円	35,266 千円	25,421 千円	23,112 千円
		公債費(c)	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
		計(a)+(b)+(c)	174,957 千円	179,076 千円	156,705 千円	156,903 千円
	収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		34,486 千円	34,486 千円	30,500 千円	29,849 千円
	経費のうち、一般財源等		138,506 千円	142,625 千円	124,644 千円	126,090 千円
地域保健法及び同法施行令に基づき、地域住民の健康の保持及び増進並びに公衆衛生の向上を目的とした試験検査事業を実施する。 1 試験検査事業費:35,218千円(試験検査費 28,415千円、検査機器整備費 6,692千円 等)						
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1 検査依頼に応じた検査の実施	最終目標	常に100%を目標とする		
			6年度	100%	100%	(見込)
			5年度	100%	100%	(実績)
		2 診断書類等の発行	最終目標	常に100%を目標とする		
			6年度	100%	100%	(見込)
			5年度	100%	100%	(実績)
		3 県民(政令市・中核市除く)一人当たりのコスト(PL経常費用/本県人口(政令市・中核市除く))	最終目標	-		
			6年度	-	-	(見込)
			5年度	-	44円	(実績)
		4	最終目標			
			6年度			(見込)
			5年度			(実績)
		5	最終目標			
			6年度			(見込)
5年度				(実績)		
外部要因等	腸管出血性大腸菌O157及び地下水汚染等原因とする健康危機管理事例の発生に伴う検査需要の増加。					
目的の達成に関する評価	B:目標達成(判断の理由) ◎主要な指標:1(理由:総事業費に占める事業費の割合が最も高い事業であるため) ・全ての指標・目標において100%の実績を達成することができたため、管理事業全体として、目標達成することができた。 ・試験検査事業については、試験検査の精度管理を適切に実施したことによって、目標どおり、住民の検査依頼に応じた検査の実施及び診断書類等の発行をすることができた。					
コスト指標の増減分析	5年度の県民(政令市・中核市除く)当たりのコストは、人件費の減少等により、4年度40円に比べ4円増加した。					
課題	大規模な健康危機管理事例に伴い住民等からの検査依頼が増加した場合に対応できるよう、検査精度の維持・向上に努め、引き続き信頼性のある科学的データを提供すること。					
今後の方向性	地域住民等から依頼された試験検査を全て適切に実施し、信頼性のある科学的データを提供していく。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	3280	事業名	医事事業			
所属名	保健医療局健康医務部 医務課	評価責任者	医務課長 東川 隆治			
		作成責任者	増井 利晃	ダイヤルイン	052-954-6274	
政策名	安心できる保健医療サービスの実現		施策名	地域医療の充実		
事業目的	医療法に基づく適切な医療の確保、医師確保対策の推進、へき地医療の確保、臓器移植に関する普及啓発等					
根拠法令・計画等	医療法、新医師確保総合対策(厚生労働省通知)、へき地保健医療対策実施要領、臓器の移植に関する法律等					
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)	
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	35.60人 (9.70人)	36.60人 (10.10人)	36.60人 (10.10人)	36.30人 (9.70人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	1人 (0人)	2.50人 (0.50人)	2.50人 (0.50人)	2.50人 (0.50人)
	経費	人件費(a)	367,885 千円	369,951 千円	449,368 千円	462,584 千円
		事業費(b)	4,236,762 千円	2,460,185 千円	2,787,014 千円	5,070,114 千円
		公債費(c)	28,732 千円	34,779 千円	34,776 千円	34,992 千円
		計(a)+(b)+(c)	4,633,379 千円	2,864,915 千円	3,271,159 千円	5,567,690 千円
	収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		147,653 千円	165,768 千円	133,297 千円	144,221 千円
	経費のうち、一般財源等		456,073 千円	333,607 千円	431,189 千円	30,668 千円
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>良質・適切な医療の確保、医療供給の確保、在宅医療の推進、医師確保対策の推進等のための補助、相談事業を行う。</p> <p>1 地域医療支援センター運営事業費:23,091千円</p> <p>2 へき地医療対策費補助金:118,921千円(へき地診療所運営費:45,398千円)</p> <p>3 医療安全対策推進事業費:42,346千円(県医師会相談事業委託費:22,758千円)</p> <p>4 在宅医療連携体制支援事業費:15,966千円</p> <p>5 その他26事業:4,036,438千円</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1 地域枠医師の派遣調整数の割合	最終目標		100%	
			6年度	100%	100% (見込)	
			5年度	100%	100% (実績)	
		2 へき地診療所代診医派遣実施率	最終目標		100%	
			6年度	100%	100% (見込)	
			5年度	100%	100% (実績)	
		3 医療に係る相談支援件数	最終目標		前年度以上	
			6年度	前年度以上	3,687件 (見込)	
			5年度	前年度(3,637件)以上	3,687件 (実績)	
		4 在宅医療支援診療所・病院数	最終目標		前年度以上	
			6年度	前年度以上	926施設 (見込)	
			5年度	前年度(896施設)以上	926施設 (実績)	
		5 県民当たりコスト (PL経常費用/本県人口)	最終目標		-	
			6年度	-	- (見込)	
	5年度		-	397円 (実績)		
	外部要因等	地域及び診療科偏在による医師不足があり、診療制限を行っている病院がある。				
	目的の達成に関する評価	<p>B:目標達成 (判断の理由)</p> <p>◎主な指標:2(理由:へき地医療の確保は地域医療充実の根源となるため)</p> <p>・全ての指標において100%以上の実績を達成することができたため、目標達成とした。</p>				
コスト指標の増減分析	令和5年度の県民当たりコストは、事業費減少等により4年度728円に比べ331円減少した。					
課題	施策の効果が現れるまでに時間を要する。					
今後の方向性	医師不足に関する調査・分析を踏まえ、目標が達成されるよう、引き続き医療機関への支援を行っていく。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	3300	事業名	救急医療事業				
所属名	健康福祉部保健医療局 医務課	評価責任者	医務課長 東川 隆治				
		作成責任者	柘植 脩平	ダイヤルイン	052-954-6628		
政策名	安心できる保健医療サービスの実現		施策名	救命率の向上			
事業目的	救急、災害、小児及び周産期医療の円滑な提供を図るため、医療機関に対する補助、各種システムの運営、災害に備えた訓練等を実施する。						
根拠法令・計画等	医療法第1条の3・第30条の4、救急医療対策事業実施要綱、災害医療対策事業等実施要綱、愛知県医療救護活動計画						
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)		
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	9.60人(2人)	9.60人(2.10人)	9.60人(0人)	10.70人(2.10人)	
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	
	経費	人件費(a)	95,028千円	91,805千円	90,711千円	104,481千円	
		事業費(b)	4,064,034千円	3,376,512千円	2,187,103千円	1,458,095千円	
		公債費(c)	39,152千円	38,303千円	38,377千円	38,246千円	
		計(a)+(b)+(c)	4,198,214千円	3,506,620千円	2,316,191千円	1,600,821千円	
収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円		
経費のうち、一般財源等		1,268,516千円	1,283,722千円	951,197千円	611,832千円		
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>救急、災害、小児及び周産期医療の円滑な提供を図るため、医療機関に対する補助、各種システムの運営、災害に備えた訓練等を実施する。</p> <p>[主な事業]</p> <ol style="list-style-type: none"> 広域災害救急医療情報システム運営費:335,748千円 救命救急センター運営費補助金:554,486千円 ドクターヘリ運営費補助金:614,746千円 周産期医療対策費:816,277千円 災害時拠点強化緊急促進事業費補助金:579,207千円 その他 19事業:1,163,570千円 						
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込		
		1	救命救急センター数	最終目標	2次医療圏に原則複数設置		
				6年度	24箇所	24箇所	(見込)
				5年度	24箇所	24箇所	(実績)
				最終目標	前年度以下		
				6年度	前年度以下	前年度以下	(見込)
		2	救命救急センターへ搬送された軽症患者の割合	5年度	前年度(48.1%)以下	48.8%	(実績)
				最終目標	36箇所		
		3	25年4月から新たに適用される指定要件を満たす災害拠点病院数	6年度	36箇所	38箇所	(見込)
				5年度	36箇所	36箇所	(実績)
		4	周産期死亡率	最終目標	4.0以下		
				6年度	4.0以下	4.0以下	(見込)
				5年度	4.0以下	4.0以下	(実績)
		5	県民あたりコスト (PL経常費用/本県人口)	最終目標	-		
				6年度	-	-	(見込)
5年度	-			303円	(実績)		
外部要因等	なし						
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり(判断の理由)</p> <p>◎主要な目標:2(理由:第1次、第2次、第3次救急医療体制全体のために関わる指標のため)</p> <p>・指標2については目標に近い実績値であったこと、その他の指標においては100%以上の実績を達成することができたため、管理事業全体としては相当程度進展ありとした。</p>						
コスト指標の増減分析	補助要望の増加に伴い、5年度の県民あたりコストは、4年度210円に比べ、93円増加した。						
課題	患者の症状の度合に応じた第1次・第2次・第3次の救急医療機関の機能分担が求められている。						
今後の方向性	今後も救急医療機関に対する施設整備補助や運営費の補助、救急や周産期システムの運営、災害に備えた研修や訓練を行い、救急、災害、小児及び周産期医療体制の整備を図っていく。						

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	3305	事業名	看護師等指導管理事業			
所属名	保健医療局健康医務部 医務課	評価責任者	医務課長 東川 隆治			
		作成責任者	江尻 尚樹	ダイヤルイン	052-954-6276	
政策名	安心できる保健医療サービスの実現		施策名	看護職員等医療従事者の確保と資質向上		
事業目的	看護職員の資質向上ならびに看護職員の離職防止、再就職促進を目的とする。					
根拠法令・計画等	愛知県地域医療介護総合確保基金事業補助金交付要綱 など					
従事人員・経費等	区分		予算額		決算額(C/F)	
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	8.40人 (0人)	8.50人 (0人)	8.50人 (0人)	8.50人 (0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)
	経費	人件費(a)	84,249 千円	82,469 千円	81,321 千円	83,060 千円
		事業費(b)	1,340,047 千円	965,493 千円	728,237 千円	1,846,553 千円
		公債費(c)	11,816 千円	72,868 千円	72,870 千円	18,298 千円
		計(a)+(b)+(c)	1,436,112 千円	1,120,830 千円	882,428 千円	1,947,910 千円
	収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	経費のうち、一般財源等		208,409 千円	270,116 千円	236,961 千円	150,398 千円
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>看護職員の養成と資質の向上、離職防止対策と再就業の支援、看護職員確保対策を目的として、看護師等養成所の指導事務、運営費補助、普及啓発事業等を行う。</p> <p>[主な事業]</p> <p>1 看護指導費:20,381千円(看護師学校等指導費2,216千円、外国人看護師候補者就労支援事業費10,846千円、看護職員修学資金債権管理事業費1,050千円、助産師出向支援事業2,102千円、准看護師簿管理システム改修費1,573千円、愛知看護専門学校跡地維持管理費2,594千円)</p> <p>2 看護職員確保啓発費:5,212千円(看護週間事業費1,537千円、看護職員確保事業費補助金3,675千円)</p> <p>3 ナースセンター費:128,673千円(人件費79,042千円、事業費49,631千円)</p> <p>4 新人看護職員研修事業費:144,371千円(新人看護職員研修事業費補助金103,051千円、訪問看護就労支援事業費補助金37,742千円、新人看護職員研修責任者等研修事業3,578千円)</p> <p>5 訪問看護推進事業費:12,376千円</p> <p>6 看護師養成所運営費補助金:304,976千円</p> <p>7 病院内保育所運営費補助金:341,160千円</p> <p>8 看護職員専門分野研修事業費補助金:4,200千円</p> <p>9 特定行為研修事業費補助金:8,055千円</p> <p>10 看護補助者処遇改善事業費補助金:211,127千円</p> <p>11 看護師勤務環境改善施設整備費補助金:2,517千円</p> <p>12 愛知県看護研修会館整備費補助金:152,199千円</p> <p>13 へき地医療確保看護修学資金貸付金4,800千円</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	県内の看護師等養成施設卒業者の県内就業率	最終目標	100%	
				6年度	100%	100% (見込)
				5年度	100%	79.6% (実績)
		2	新人看護職員研修実施医療機関数	最終目標	100施設	
				6年度	87施設	87施設 (見込)
				5年度	90施設	82施設 (実績)
		3	ナースセンターにおける就業者数	最終目標	1,400人	
				6年度	1,250人	1,250人 (見込)
				5年度	1,400人	1,212人 (実績)
		4	県民あたりコスト (PL経常費用/本県人口)	最終目標	—	
				6年度	—	— (見込)
				5年度	—	109円 (実績)
		5		最終目標		
				6年度		(見込)
	5年度				(実績)	
	外部要因等	看護師等養成所の課程数及び定員は横ばい傾向にあるため、看護師等養成所からの新卒者の伸びが期待できない状況にある。				
	目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり (判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:3(理由:看護師等養成所からの新卒者の伸びが期待できない状態であり、ナースセンターの離職防止や再就職の支援に関する取組が重要となっているため。)</p> <p>・指標1については目標に近い実績値であったこと、主要な指標3において目標値の80%以上の実績値であったことから、管理事業全体としては相当程度進展ありとした。</p>				
	コスト指標の増減分析	5年度の県民あたりコストは、4年度と同額であった。				
	課題	ナースセンターを通じた就業者数が28年度から堅調に増加していたが、令和4年度から減少に転じ、5年度も同程度で推移した。目標達成に向けて再就職支援に関する取組を、さらに効果的に実施していく必要がある。				
今後の方向性	今後とも、看護師の資質向上のための研修に関する施策のほか、離職防止や再就業支援に関する各種施策を行っていく。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	3310	事業名	総合看護専門学校管理運営事業			
所属名	保健医療局健康医務部医務課	評価責任者	医務課長 東川 隆治			
		作成責任者	江尻 尚樹	ダイヤルイン	052-954-6276	
政策名	安心できる保健医療サービスの実現		施策名	総合看護専門学校の管理運営		
事業目的	看護に関する専門の知識及び技能を修得させ、もって社会的に有為な看護師を養成する。					
根拠法令・計画等	総合看護専門学校条例					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	40.20人 (39人)	55.20人 (54人)	55.20人 (54人)	59.20人 (58人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	6人 (6人)	8人 (8人)	8人 (8人)	8人 (8人)
	経費	人件費(a)	417,828 千円	555,647 千円	507,037 千円	558,223 千円
		事業費(b)	119,503 千円	163,368 千円	122,414 千円	344,962 千円
		公債費(c)	9,501 千円	9,668 千円	9,667 千円	15,740 千円
		計(a)+(b)+(c)	546,832 千円	728,683 千円	639,118 千円	918,925 千円
取入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		50,040 千円	62,502 千円	61,225 千円	68,200 千円	
経費のうち、一般財源等		474,442 千円	639,314 千円	564,211 千円	836,845 千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>資質の高い看護師を養成するために県立看護専門学校の管理運営を行うとともに、「看護研修センター」(総合看護専門学校内)において、看護職員の専門性・実践力向上のための各種研修を行う。</p> <p>[主な事業]</p> <p>1 総合看護専門学校管理運営費:46,684千円(講師手当19,025千円、業務委託料6,508千円)</p> <p>2 総合看護専門学校校費:30,701千円(臨地実習委託料17,708千円、教育用パソコンリース料等4,575千円)</p> <p>3 総合看護専門学校施設整備費:8,397千円(工事請負費7,678千円、備品購入費719千円)</p> <p>4 看護研修センター費:33,721千円</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	看護研修センターの研修受講者数	最終目標	820人	
				6年度	820人	820人 (見込)
				5年度	840人	642人 (実績)
		2	総合看護専門学校の国家試験の合格率	最終目標	100%	
				6年度	100%	100% (見込)
				5年度	100%	98.3% (実績)
		3	学生当たりコスト(PL経常費用/県立看護専門学生数+研修センター受講者数)	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
				5年度	-	588,567円 (実績)
		4		最終目標		
				6年度		(見込)
				5年度		(実績)
		5		最終目標		
				6年度		(見込)
5年度				(実績)		
外部要因等	令和6年3月31日をもって県立愛知看護専門学校が閉校した。					
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:2(理由:国家資格の合格率は、事業目的が達成できたかを明確に表す指標であるため。)</p> <p>・県立看護専門学校の管理運営・施設整備事業については、教育環境の整備等により質の高い看護教育を提供しており、総合看護専門学校において100%を下回ったが、愛知看護専門学校においては100%を達成した。</p>					
コスト指標の増減分析	5年度の学生当たりコストは、愛知看護専門学校の閉校を見据えた学生数の減等より、4年度の181,102円から407,465円増加した。					
課題	国家試験の合格率を向上させるために、教育環境の整備や実習施設の確保・充実を図り、質の高い看護教育を提供していくことが必要である。					
今後の方向性	今後も教育環境の整備に努め、質の高い看護師を養成していくとともに、看護教員等指導者の養成や再就業希望者のための実務研修等、看護職員の資質向上及び再就業支援のための各種施策に取り組んでいく。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	3315	事業名	医薬安全対策事業														
所属名	保健医療局生活衛生部医薬安全課	評価責任者	医薬安全課長 早川 直宏														
		作成責任者	高野 恭兵	ダイヤルイン	052-954-6303												
政策名	安心できる保健医療サービスの実現		施策名	医薬安全対策の推進													
事業目的	医薬品等の安全確保対策、毒劇物による危害防止対策、健康危機管理対策、麻薬・覚醒剤等の薬物乱用防止対策、血液確保対策等の事業を行う																
根拠法令・計画等	薬機法、薬機法施行令、薬剤師法、医師法、毒物及び劇物取締法、地域保健法、麻薬及び向精神薬取締法、覚醒剤取締法、大麻取締法等																
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)												
			6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度											
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	37.40人 (11.30人)	36.40人 (11.30人)	36.40人 (11.30人)	38.30人 (14.20人)											
		非常勤職員(うち地方機関分)	2.20人 (0.20人)	2.80人 (0.80人)	2.80人 (0.80人)	2.80人 (0.80人)											
	経費	人件費(a)	381,710 千円	360,239 千円	346,555 千円	375,217 千円											
		事業費(b)	99,149 千円	98,622 千円	74,253 千円	77,930 千円											
		公債費(c)	3,212 千円	3,253 千円	3,254 千円	3,296 千円											
		計(a)+(b)+(c)	484,071 千円	462,114 千円	424,062 千円	456,443 千円											
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		45,265 千円	44,952 千円	31,644 千円	25,952 千円												
経費のうち、一般財源等		411,935 千円	393,574 千円	372,432 千円	426,134 千円												
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>医薬品の安全確保対策、毒物劇物による危害防止対策、薬物乱用防止対策及び血液確保等のため、許認可事務、監視・指導事業及び普及啓発事業等を行う。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 薬事安全確保対策費:8,875千円</td> <td style="width: 50%;">7 毒物劇物監視指導費:5,388千円</td> </tr> <tr> <td>2 薬事許認可事務費:12,792千円</td> <td>8 薬物乱用防止対策費:4,196千円</td> </tr> <tr> <td>3 医薬品登録販売者試験登録費:17,275千円</td> <td>9 危険ドラッグ対策費:18,874千円</td> </tr> <tr> <td>4 医薬品検定等事務費:10,364千円</td> <td>10 血液事業対策費:2,739千円</td> </tr> <tr> <td>5 医薬分業適正化事業費:5,667千円</td> <td>11 骨髄提供者助成事業費補助金:5,880千円</td> </tr> <tr> <td>6 災害時医薬品等安定供給確保事業費:3,012千円</td> <td>12 その他4事業:4,087千円</td> </tr> </table>					1 薬事安全確保対策費:8,875千円	7 毒物劇物監視指導費:5,388千円	2 薬事許認可事務費:12,792千円	8 薬物乱用防止対策費:4,196千円	3 医薬品登録販売者試験登録費:17,275千円	9 危険ドラッグ対策費:18,874千円	4 医薬品検定等事務費:10,364千円	10 血液事業対策費:2,739千円	5 医薬分業適正化事業費:5,667千円	11 骨髄提供者助成事業費補助金:5,880千円	6 災害時医薬品等安定供給確保事業費:3,012千円	12 その他4事業:4,087千円
1 薬事安全確保対策費:8,875千円	7 毒物劇物監視指導費:5,388千円																
2 薬事許認可事務費:12,792千円	8 薬物乱用防止対策費:4,196千円																
3 医薬品登録販売者試験登録費:17,275千円	9 危険ドラッグ対策費:18,874千円																
4 医薬品検定等事務費:10,364千円	10 血液事業対策費:2,739千円																
5 医薬分業適正化事業費:5,667千円	11 骨髄提供者助成事業費補助金:5,880千円																
6 災害時医薬品等安定供給確保事業費:3,012千円	12 その他4事業:4,087千円																
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込												
		1	献血目標単位に対する達成率(献血実績単位/献血目標単位×100)	最終目標	毎年度100%												
				6年度	100%	100% (見込)											
		5年度	100%	98.8% (実績)													
		2	被啓発者数(薬物乱用防止啓発資材の作成数)	最終目標	毎年度150,000人以上												
				6年度	150,000人	150,000人 (見込)											
		5年度	150,000人	153,000人 (実績)													
		3	監視指導実施率(毒物劇物営業者等立入検査等実施数/目標数)	最終目標	毎年度100%												
				6年度	100%	100% (見込)											
		5年度	100%	84.4% (実績)													
4	訓練・研修会の実施回数(健康危機発生時に備えた訓練・研修会)	最終目標	毎年度12回以上														
		6年度	12回	12回 (見込)													
5年度	12回	12回 (実績)															
5	県民当たりコスト(PL経常費用/本県人口)	最終目標	-														
		6年度	-	- (見込)													
5年度	-	54円 (実績)															
外部要因等	監視指導実施率について、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた保健所業務は順次再開されたところであるが、年度途中で再開であったため、目標を達成できなかった。																
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:3(理由:安全確保のためには適切な監視指導が不可欠なため)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理事業全体としては、目標を達成できなかった指標はいくつかあるが、目標を達成できた指標もあった。 ・主要な指標の監視指導実施率は、目標の100%を下回ったが、適正な監視指導を行い、安全確保を図ることができた。 ・県内全ての中学3年生と高校2年生に対し啓発資材を配布することにより効果的な啓発を行い、目標を達成することができた。 																
コスト指標の増減分析	5年度の県民あたりコストは、人件費の減少により、4年度の56円に比べ2円減少した。																
課題	新型コロナウイルス感染症の影響により縮小した監視指導及び訓練・研修会の実施について、コロナ禍以前の実施数に回復させる。																
今後の方向性	今後も継続して、許認可事務及び普及啓発活動等を適切に実施し、県民あたりコストの削減に努める。																

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和6年度 管理事業評価調書(6年度対象)

事業コード	3320	事業名	あいち健康の森薬草園管理運営事業			
所属名	保健医療局生活衛生部医薬安全課	評価責任者	医薬安全課長 早川 直宏			
		作成責任者	河村 知明	ダイヤルイン	052-954-6344	
政策名	健康福祉行政の円滑な運営		施策名	あいち健康の森薬草園の管理運営		
事業目的	「あいち健康の森薬草園」内で「薬草」の活用を通じて県民の心とからだの健康づくりを一層推進する。					
根拠法令・計画等	あいち健康の森薬草園条例					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		6年度(当初)	5年度(当初)	5年度	4年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	0.90人(0人)	0.90人(0人)	0.90人(0人)	0.90人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	経費	人件費(a)	8,819千円	8,521千円	8,433千円	8,693千円
		事業費(b)	24,168千円	23,415千円	22,866千円	22,501千円
		公債費(c)	14,928千円	15,082千円	15,082千円	15,240千円
		計(a)+(b)+(c)	47,915千円	47,018千円	46,380千円	46,434千円
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円	
経費のうち、一般財源等		47,845千円	46,948千円	46,309千円	46,363千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>「あいち健康の森薬草園」内で「薬草」の活用を通じて県民の心とからだの健康づくりを一層推進するため、あいち健康の森薬草園の運営管理を行う。</p> <p>1 指導事務費:463千円(運営懇談会等経費343千円、環境整備費120千円) 2 管理運営委託費:23,705千円</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	あいち健康の森薬草園の利用者数	最終目標	毎年度22,500人以上	
				6年度	22,500人	38,300人 (見込)
				5年度	22,500人	41,322人 (実績)
		2	講習会等の実施回数	最終目標	毎年度5回以上	
				6年度	5回	60回 (見込)
				5年度	5回	108回 (実績)
		3	県民当たりコスト(PL経常費用/本県人口)	最終目標	-	
				6年度	-	- (見込)
				5年度	-	6円 (実績)
		4		最終目標		
				6年度		(見込)
				5年度		(実績)
		5		最終目標		
				6年度		(見込)
5年度				(実績)		
外部要因等	地元地域や近隣施設において開催されたイベントを効果的に利用して薬草園の周知を図った結果、利用者数が目標を上回った。					
目的の達成に関する評価	<p>A:目標超過達成(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:1(理由 指定管理の計画数値であるため)</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者数は41,322人、講習会の実施回数は108回であり、目標値を大きく上回ることができたことから、指定管理者の取組状況も含め、管理事業全体としては、目的を達成できている。 指導事務事業は、薬草園に関する運営懇談会を開催し、有識者等と今後の管理運営等について意見交換を行い、実際の管理・運営に役立てることができた。 管理運営委託事業は、愛知県薬剤師会・日誠グループを指定管理者として指定し、管理・運営業務を委託(令和2~6年度)しているところであるが、概ね県の期待した水準どおりの運営・管理が行われている。 					
コスト指標の増減分析	5年度の県民当たりコストは、4年度と同額の6円である。					
課題	利用者の年齢層に偏りが見られること及び夏場に利用者数が減少すること。					
今後の方向性	子どもからお年寄りまで、幅広い年代の皆様楽しんでいただける講座、イベントの企画、開催に取り組み、利用者確保につなげていく。特に夏休み期間も含め、小学校、中学校の生徒を対象とした体験学習の受け入れに力を入れていく。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

